

2012年度立命館大学校友会

東日本大震災復興支援事業 東北応援ツアーレポート

氏名 森谷賀彦

参加コース A：岩手県コース

「現地を訪問して思うこと」

今回のツアーに参加したのは、あの大地震から1年6カ月以上が過ぎ、当初感じていた「何かしなければ」という、焦りにも似た気持ちが薄れてきていることを感じたからである。

現地はまだ随所に災害の爪痕が見て取れたし、バスから降りて見た大槌駅周辺の状況には、言葉では言い表せない大きな衝撃を受けた。

勉強会での先輩校友の被災当時のお話は、穏やかな語り口の中にも当時苦労された様子を十分感じ取ることができた。また、このツアーは同じ目的をもった校友が参加しているので、ホテルの同室の人達と今回の震災の事や阪神大震災の事、防災についてなど話をすることもできた。

「被災地に思いを寄せる」ということがよく言われるが、今回現地を訪れて、思いを寄せる場所や人の顔を具体的に心に描けるようになった。また、当初考えていたよりはるかに多くのものを得ることができたと思うし、僅かな体験ではあるがこれを多くの人に伝えたいと思う。そして、もう一度岩手県をはじめ東北地方を訪れたいと思う。